

# 営農技術情報

発行 令和4年5月2日

第5号

たいせつ農業協同組合

営農部 農産販売課

本所 営農センター 57-2357

支所 営農センター 87-4111

本年の天候は一時気温が上がりましたがその後安定しておらず、シルバー、ポリなどの被覆資材を使用する時期が長くなり、ムレ苗やカビなどの発生が心配されるため、下表 1、2 を参考に防除・対策をしましょう。

《表1》

病原菌の種類	病状と特徴、見分け方	耕種的な防除対策
赤カビ (フザリウム菌)	・ 籾を中心に白～淡紅色のカビ発生 ・ 地際部、根が枯死し、生育不良 ・ 萎凋、枯死し籾や根が紅色になる	・ 過湿状態を避ける ・ 夜間保温に努める(10℃以下で赤カビ、ムレ苗の発生が多くなる) ・ 高温管理を避け徒長させない ・ 発根促進に努める ・ 軽度の白カビは、土壤の乾燥で蔓延を防止する。 ・ 来年に向けて土壤を適正な pH へ調整し、排水対策を講じる。
ムレ苗 (ピシウム菌)	・ 急激に葉が巻き針状に萎凋、枯死 ・ 発生はスポット状、加`は見られない ・ 地際部は水浸状褐変腐敗	
白カビ (リゾプス菌)	・ 床土表土、籾層に白色のカビ発生 ・ 蔓延すると発芽、発育不良となり根は短く、根数も少ない	

《表2》

病害名	防除時期	処理方法	薬剤名	希釈倍率	使用量	使用回数
苗立枯病 フザリウム菌 ピシウム菌	播種時又は 発芽後	土壤灌注	タチガレエースM液剤	500～ 1000倍	500 ml/箱	1

※タチガレエースM液剤は使用濃度、使用量が多いと一時生育抑制を起こします。

## 育苗後半からの育苗管理と水田管理

### ◆健苗の移植を行えるようにしましょう。

降霜や強風の恐れがない限りは、夜間もハウスの肩・裾を開放して外気温に馴染ませ、苗の硬化に努めましょう。ゆめぴりかは育苗段階での分けつが取れにくい品種のため、2.5葉期・移植前に追肥を実施しましょう。

また、2.5葉以降にハウス内温度が25℃を越えると、早期異常出穂が発生しやすくなり、収量・品質に影響を及ぼす可能性がある為、育苗後半の温度管理は特に気を付けましょう。

水田管理として、施肥後代かきまでの日数が開いてしまうと窒素成分が上手く溶け込まず、流亡・脱窒してしまうので、施肥後土壤に混和したら速やかに入水し、代かきは施肥後10日以内に行いましょう。

### ◆農作業事故に十分注意しましょう！

トラクターの操作や水田に出て行う作業が本格化しておりますが、この時期から農作業事故が増加します。農作業事故ゼロに向け、計画的な作業と休息を間に取り、ゆとりを持って作業に当たるようにしましょう。

